

CO₂回収設備完成

釧路 KCM、事業化に意欲

釧路コールマイン（KCM、菊地靖則社長）は、自社ボイラーの排ガスから二酸化炭素（CO₂）を取り出す「CO₂分離回収設備」を完成させた。

9日には発表会が行われ、菊地社長はカーボンリサイクルによる社会貢献とCO₂販売など事業化に意欲を示した。

KCMは石炭採掘後の埋め戻しに関して、経産省の支援を受けて2021年から、石炭を燃やした後に出る石炭灰とCO₂を混合して鉱物化した

充填剤を活用するといった実証実験に取り組んでいる。

ボイラーの排ガスから硫黄を取り除く脱硫装置は約1年前に整備していたが、今回新たにCO₂濃縮装置やCO₂圧送機、貯蔵タンクなどを導入したことで設備が完成。CO₂削減に大きく貢献すると同時に、これまで購入に頼っていたCO₂が自前でも生産できるようになった。

この日は釧路市の担当者やメディアに向けた完

成発表会が行われ、松本裕之専務取締役が施設の概要を紹介。12月から本格稼働させ、1日約350トン、年間約100万トンのCO₂を回収し、坑内へ埋め戻すことができるようになるなどと説明した。

設備の完成について、菊地社長は「ここからがスタート。生きている炭鉱（ヤマ）だからこそできる取り組み」と力を込める。

「釧路市と協調してCO₂を抑制するとともに、販売などの事業化に



結び付けていきたい」と語った。（須貝喜治）

設備の完成について思いを語る菊地社長（右）